

# 令和6年度市川南中学校の研究の概要

## 1. 研究主題

### 「自ら考え、判断し、主体的に学ぶ生徒の育成」 －「分かる」「できる」を実感できる授業づくりの工夫を通して－

## 2. 主題設定の理由

### (1) 今日的な教育課題から

人々の立場・考えにおける多様性が認められるようになった現代社会において、子どもたちには「自ら課題を見つけ、考え、判断して行動する力」が求められている。また、学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の重要性が示されている。「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」は「生きる力」を育む重要な構成要素であり、これらの育成は、変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちに必要不可欠なものとなっている。育成すべき資質・能力として三つの要素を①「何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）」、②「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力）」、③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）」をバランスよく含ませながら、子どもたちが大きく成長していけるよう各教科並びに横断的に育成していく必要があるとしている。

「目標（課題）の設定、様々なかかわり合いの方法、個に応じた支援」は「主体的な学び」の重要な要素であり、それらに重点を置いた研究を行うことで、「自ら考え、判断し、主体的に学ぶ生徒の育成」へつながると考える。

### (2) 本校の実態から

本校は、小規模校のため、友人関係が固定化されることが多い。幼い頃から互いに知り合いのため、全員で協力し物事に取り組むことができるが、その一方で、集団の中での自分の居場所がうまく見つけられずに孤立感を覚えている生徒もいる。学習については、多くの生徒が、決められたことは素直にやろうとし、真面目に取り組んでいるが、より主体的に学習しようという姿勢はあまり見られない。また生徒の人数の関係で生徒同士のかかわり合いが難しい学年があったこと、学習の状況についても、意欲や理解度については個人差が大きい状況にある。そのため、生徒それぞれの状況を見極めて、個々に合わせた指導が必要となってくる。このような環境の中で、「学習」という観点からも、生徒一人一人が自分自身の存在意義を確認し、自信をもって学校生活を送れるようにしていくことが求められる。このことを、職員全体で共有し、授業力の向上に努めていきたい。

### (3) 昨年度までの研究成果から

昨年度の研究においては、研究授業を3本（英語科、保健体育科、数学科）行い、講師を招聘し研究会を開催する中で、生徒同士のかかわり合いの手立てについて学びを深めた。また、職員を「かかわり合い部会」と「みさと学部会」の二つに分け、それぞれが研究を行った。かかわり合い部会は、研究授業の指導案検討を中心に行い、かかわり合いの工夫等について意見交換を行った。みさと学部会は、ふるさとキャリア教育であるみさと学についての意義について学び、各学年の取り組みがより充実したものになるように働きかけを行った。

## 3. 研究目標

自ら考え、判断し、主体的に学ぶ生徒を育成するために「分かる」、「できる」を実感できる学習指導をどのように工夫したら良いか明らかにする。

#### 4. 研究内容

「主体的な学び」及び「個に応じた支援」に向けて研究を深めていく。

##### (1) 「主体的な学び」に焦点化した授業づくり

###### 【研究の視点】

- ①授業での「目標・課題の設定」「かかわり合い(もの・教師・生徒)」「言語活動の充実」について研究,実践する。(「やまなしスタンダード」を含む)
- ②主体的な学びを実現する「ICTの有効的な活用方法」を研究の視点に入れる。

##### (2) 「個に応じた支援」に焦点を当て,研究を深めていく。

###### 【研究の視点】

- ①「教師の有効的な支援の方法」や「個別最適な学びのあり方」について研究,実践する。
- ②特別支援教育について理解を深め,教員の共通理解を図る。

###### 【実践方法】

- ①「主体的な学び」「個に応じた支援」についての理論的な学習の実施。
- ②授業者全員が,日常的に研究テーマに沿った授業実践を進める。
- ③研究テーマに沿った授業研究会を行う。
- ④指導主事を招聘し,学習を深めるとともに,本校の実践に対する指導・助言を仰ぐ。
- ⑤生徒の授業評価シートやノート(ワークシート)記録等から生徒の変容を見取る。

#### 5. 研究方法

- (1)研究全体に関する企画や立案は,研究推進委員会が中心となり,組織的に行う。
- (2)全教員が2学期の中に設定した日に授業公開を行い,意見交換や管理職の指導助言を得る中で授業改善を図る。(人事評価にも関わる関係で,授業公開の日時については校長先生・教頭先生と事前に確認をとってください。また日時が決定次第,研究主任・教務主任への報告も合わせてお願いします。)
- (3)日常的に互いに授業観察を行い,気づいたことを授業者に伝え学び合うなどのOJTの充実を図る。
- (4)指導主事等を招聘しての研究授業を年2回実施し,授業改善を図る。

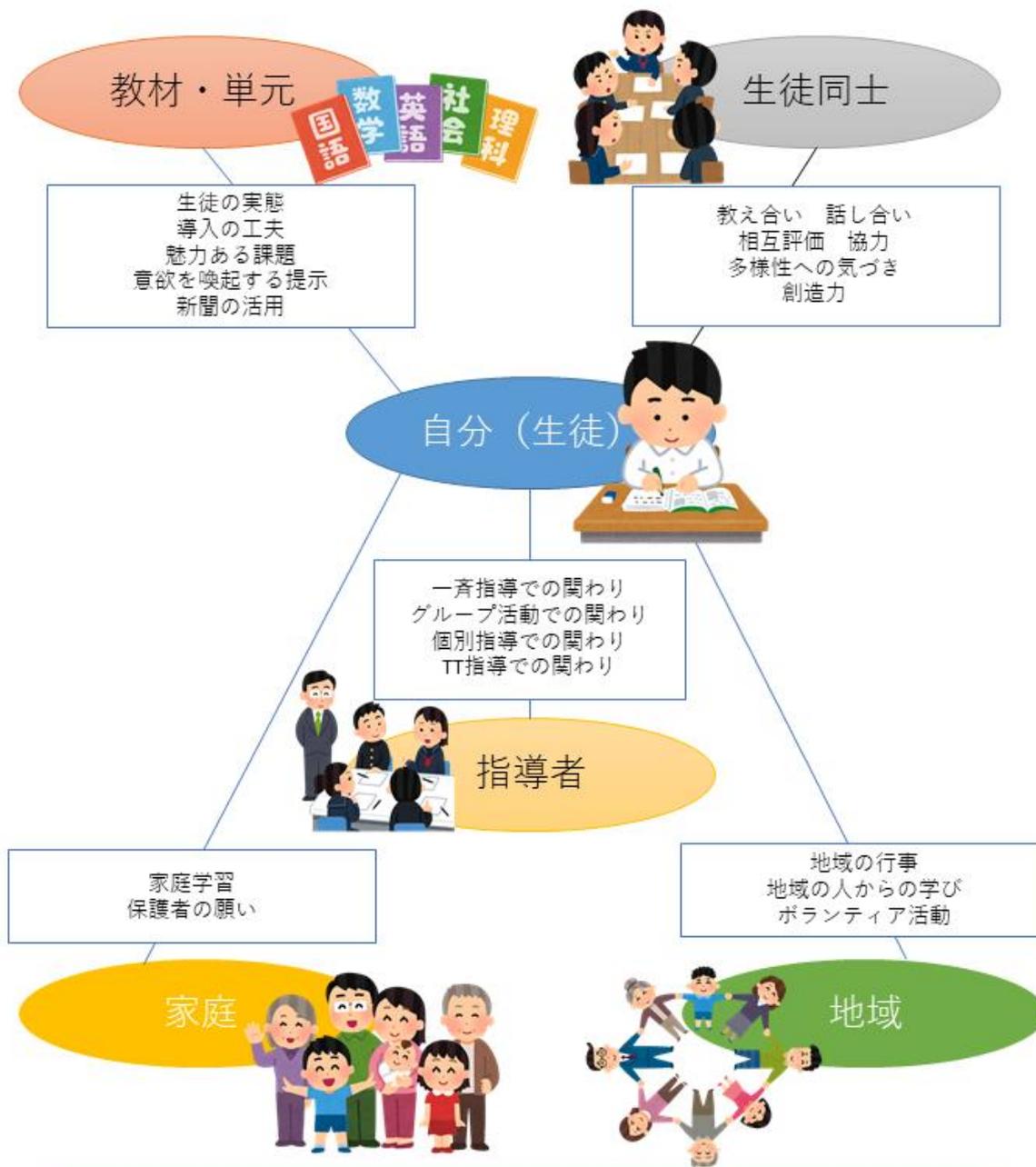
資料 やまなしスタンダード

### やまなしスタンダード

#### ○授業づくりの7つの視点

- (1)授業のはじめに児童生徒に授業のめあて(目標)を示している
- (2)話し合い,討論,発表などの言語活動を効果的に取り入れている
- (3)児童生徒は,他の人の話や発表に耳を傾けている
- (4)児童生徒は,ノートをとっている
- (5)活用・探究など,学んだことを別の場面で使うようにしているか
- (6)授業や単元の終わりに,児童生徒がめあて(目標)を達成しているかを評価している
- (7)家庭学習(宿題や課題)と授業が有機的に結びついている

## ～「かかわり合い」についての考え方～ 自分のよさをのばすかかわり



授業の中で、生徒が「かかわり合う」ことが重要としているのは、「ものとのかかわり」「仲間とのかかわり」「教師とのかかわり」の場面である。「仲間とのかかわり」に焦点を絞り、教師が意図的に「かかわり合って学ぶ場」を設定することによって、生徒の学習に対する意欲が向上し、自ら考え、判断し、主体的に行動しようとする生徒が育つと考える。